

目録所在情報サービス用回線番号の変更

学術情報センターニュースNo.29(平成6年9月発行)の折込み記事でもご紹介しましたように、平成7年1月からセンターの西千葉電算機棟が稼働することに伴い、従来ご利用の各サービスに接続するための回線番号が以下のとおり変更になります。

DDX-P回線番号

	平成6年12月まで	平成7年1月から
目録所在情報サービス		
業務用システム		
VTSS(80年規格)	313-7108	416-7389
VTSS(76年規格)	357-1150	416-7393
N-1	352-2051	416-7422
教育用システム		
VTSS(80年規格)	361-2822	416-6139
N-1	361-2821	416-7387
情報検索サービス		
DDX-TP、INS-P	361-2822	416-6139
N-1	361-2821	416-7387
電子メールサービス		
DDX-TP、INS-P	313-1018	416-6138
N-1	355-1273	416-6136

今回の変更に伴って作業が発生するのは、公衆回線網を利用されている参加機関においてです。学術情報ネットワーク、インターネット・バックボーンをご利用の参加機関においては、特に変更作業は生じません。以下に変更作業上の注意点をあげます。

次の1)~3)の手順・回線で目録・ILLシステムを利用されている参加機関のうち、接続先の回線番号を予めシステムに設定してある場合には、今回の番号変更に伴って、設定済の回線番号を再設定する必要があります。

各機関のシステム担当者は1)~3)のどのパターンに該当するかを確認の上、再設定を実施してください。再設定する必要があるかどうか、また再設定の方法等について不明な点がある場合には、システム導入に関わった業者等にお問い合わせください。

この設定を行わない場合、平成7年1月から各システムとの接続ができなくなりますのでご注意ください。

- 1) N-1でDDX-Pを利用している機関
業務用システムは
3522051 → 4167422 となります。
教育用システムは
3612821 → 4167387 となります。
- 2) VTSSでDDX-PまたはDDX-TPを利用している機関
業務用システムは

3137108 → 4167389
あるいは 3571150 → 4167393 となります。
(上段はVTSS80年規格、下段はVTSS76年規格です)
教育用システムは
3612822 → 4166139 となります。

- 3) VTSSでINS-Pを利用している機関
業務用システムは
3137108 → 4167389 となります。
教育用システムは
3612822 → 4166139 となります。

なお、情報検索サービス・電子メールサービスを利用されている参加機関で、電話番号及び回線番号を予め設定してある場合も、同様に変更が必要になりますのでご注意ください。詳しくは 学術情報センターニュースNo.29の折込み記事をご覧ください。(同ニュースNo.30(平成6年12月発行予定)にも同様の記事を掲載する予定です)

個別版CD-ROMアンケートについて

去る10月5日付で、「個別版CD-ROMについてのアンケート」をお願いしたところ、ご多忙中にもかかわらず多数のご回答をいただき、誠にありがとうございました。

現在、アンケートの集計を行ない、個別版CD-ROMの提供に関する方針を策定中です。

なお、提供の方針につきましては、決定し次第ご案内する予定です。

目録情報に関する質問書から(雑誌)

2号が1号より先行して刊行された雑誌について、VLYRと所蔵データはどのように記入すればいいのか。

VLYRは書誌的に初号とみなすものによって記述します。例えば、1号(1994.2)、2号(1993.12)のように2号が1号より先に刊行されても、書誌的初号は1号ですので

VLYR: 1号 (1994. 2)-

と記述します。

ただし、YEARフィールドおよびPUBフィールドの出版開始年は最初の刊行によりますので、

YEAR:1993
PUB:東京 : ○○書店 , 1993. 12-

のように記述し、NOTEフィールドに2号の刊行が1号に先行したことを記録します。

また、所蔵データは数値が小さいものから大きいものへと並べますので、VLYRとは一致しませんが、

HLVR:1993-1994 HLV:1-2 CONT:+

のように記入します。

1冊目が1号という表記で刊行され、2冊目が1巻2号という表記になった場合巻次変更としなければならないのか。

新規入力の際には、このような場合は巻次変更としてVLYRおよび所蔵データを

VLYR: 1号 (1994. 7)-1号 (1994. 7) ; 1巻2号 (1994. 9)-
HLVR : 1994-1994;1994-1994 HLV:1;1(2) CONT:+

のように記述することになっています。ただし、繁雑な巻次変更を避けるために、1冊目を1巻1号とみなし、補記することによって巻次変更としない記述も可能です。

VLYR:[1巻]1号 (1994. 7)-
HLVR:1994-1994 HLV:1(1-2) CONT:+

限定された範囲で復刻された復刻版の書誌の記述を行う場合、VLYRは復刻された範囲で記述してもいいのか。

復刻版のVLYRの記述は原本の巻次年月次によることになっていますが、限定された範囲で復刻された資料の場合には、その範囲でVLYRの初号、終号を記述してください。また、復刻の範囲についてはNOTEフィールドに記録してください。

ILLシステムに関する質問書から

レコードが相手館側の状態(依頼館側から見た「処理中」、受付館側から見た「照会」、「借用中」など)のまま滞っており、資料などが届いても以後の処理ができない。

相手館側の状態のレコードについては検索以外の処理を行うことはできません。

このような場合は、相手館側に対してレコードを処理してもらうよう別途連絡することになります。

実際の処理とILLシステム上の処理の間に大きな時間差が発生しないよう、ご注意ください。

REQUESTコマンド対象データベースの追加

12月1日より、新たに以下のデータベースでREQUESTコマンドのサービスを開始します。

- 学術雑誌目次速報データベース
- 化学センサーデータベース
- 日本独文学会文献情報データベース
- スラブ地域研究文献データベース
- 文化財科学文献データベース
- 化学と教育誌データベース

したがって、REQUESTコマンドの利用できるデータベースは次頁のとおりとなります。

なお、REQUESTコマンドの詳細につきましては、「ILLシステム操作マニュアル改訂版」、及びサービス開始時にお送りした「REQUESTコマンド事前テストの手引き」をご覧ください。

「REQUESTコマンド事前テストの手引き」をご入用の場合は専門・電子情報係までご請求ください。

REQUESTコマンドが利用可能なデータベース(12月1日以降)

データベース名称	呼出コマンド	サービスデフォルト	R.オペラント
科学研究費補助金研究成果 概要データベース	KAKEN	貸借	○
学位論文記事索引データ ベース	GAKUI	複写	×
学術論文データベース 第一系	PAPER1	複写	×
学術論文データベース 第二系	PAPER2	複写	×
学会発表データベース	GAKKA I	複写	×
民間助成研究成果概要 データベース	JOSEI	貸借	×
経済学文献索引データ ベース	KEIZAI	複写	○
学会予稿集電子ファイル	YOKO	複写	×
学術雑誌目次速報データ ベース	SOKUHO	複写	×
雑誌記事索引データベース	NDLJPI	複写	×
研究者ディレクトリ	RES	複写	○
家政学文献索引データ ベース	KASEI	複写	×

RAMBIOS	RAMBIOS	複写	×
化学センサーデータベース	CHEMSENS	複写	×
日本独文学会文献情報データベース	DOKUBUN	複写	×
スラブ地域研究文献データベース	SLAV	複写	×
文化財科学文献データベース	BUNKAZAI	複写	×
化学と教育誌データベース	CHEMEDU	複写	×
COMPENDEX PLUS	COMPEN	複写	×
ISTP & B	ISTP	複写	×
EMBASE	EMBASE	複写	×
SciSearch	SCI	複写	○
Social SciSearch	SSCI	複写	○
A & H Search	AHCI	複写	○
目録所在情報データベース (和図書)	JBCAT	貸借	×
目録所在情報データベース (洋図書)	FBCAT	貸借	×
目録所在情報データベース (和雑誌)	JSCAT	複写	×
目録所在情報データベース (洋雑誌)	FSCAT	複写	×
国立国会図書館科学技術 欧文会議録データベース	NDLPROC	貸借	×
アメリカン・センター 図書館総合目録データベース	ACCAT	貸借	×
JPMARC	JPM	貸借	×
LCMARC (Books)	LCMB	貸借	×
LCMARC (Serials)	LCMS	複写	×

参照MARC流用時の注意について(4)

【洋図書書誌レコード・UK/MARC編】

[No.47のLC/MARC](#)に引き続き、今回はUK/MARC流用時の注意事項について、解説を行うことにします。

1) 「固有の標題」でないものが、TRフィールドに記録されていることがある

《解説》 UK/MARCもLC/MARC同様、ある資料の補遺または部分であることを示す名称は、本タイトルの一部として、ピリオドに続けて記録されています。したがって、"Supplement" や "Part 1" というような、センターの基準では固有の標題であるとみなせないものも、標題の一部としてTRフィールドに記録されている場合があります。

《対応》 当該名称は、巻次等または部編名として、VOLフィールドに記録します。その際、NCファイル中に当該VOLフィールドを追加すべき(あるいは当該VOLフィールドを既に持っている)書誌レコードが既に作成されていないかどうか、確認する必要があります。

2) 親書誌、あるいは中位の集合書誌単位として記録することが適当なものが、TRフィールドに記録されていることがある

3) 「固有の標題」に該当するものがCWフィールドに記録されていることがある

《解説》 2)・3)について

UK/MARCの書誌レコード作成単位が、NCの基準と一致していない場合、このような状況が発生します。

《対応》 いずれの場合も、NCの書誌レコード作成単位に合わせて、参照MARCを修正します。2)の場合、当該名称はPTBLフィールドに記録します。

3)の場合、CWフィールド中にある「固有の標題」とみなせるものをTRフィールドに移して、それぞれを単行書誌単位とする書誌レコードを作成します。参照MARC中でTRフィールドに記録されていたものは、親書誌または中位の集合書誌単位となりPTBLフィールドに移動することになります。リンク形成の際にNCファイル中にリンクすべき適当な親書誌が既に作成されていないかどうか、確認してください。なお、3)とは違うケースですが、CWフィールドに巻次等や部編名が記録されている場合にもご注意ください。これらはVOLフィールドに移します。

4) 複数の出版物理単位に対応している書誌レコードであるにもかかわらず、VOLフィールドに、対応する巻次が記録されていないことがある

《解説》 VOL、ISBN、PRICEの各フィールドは、UK/MARCの中のISBNを収納するタグと対応させて作成されています。そのためタグ中に巻次等に相当するデータがない場合、参照MARCには巻次等に対応するだけの十分な数のVOLフィールドが作られないという状況が発生します。

《対応》 目録対象資料現物の巻次等に対応するVOLフィールドを作成してください。

5) ISBNの後ろに説明語句が付いていることがある。また、NOTEフィールドにISBN及びその説明語句が記録されていることがある

6) VOLフィールドに、巻次等、ISBNの説明語句のいずれにも該当しないものが入っていることがある

《解説》 5)・6)について

5)のようなケースとしてはまず、セット物単位で1つのISBNを持つとき(set)という語句が付記されている場合が考えられます。また、(lib. bdg.)、(pbk.)等、装丁を表す版表示に該当する語句が付記されていることもあります。その他、1つの出版者からの出版物が複数の出版地に対応して複数のISBNを持つとき、(Berlin)、(New York)、(Tokyo)等の地名が付記されている場合もあります。

6)は、5)のケースと紛らわしいことも多いのですが、一番顕著な例としては、予定価格であることを示す"est."が入っているような場合があげられます。また、紙質の説明である"acid free paper"という語句が入っていることもあります。

《対応》 5)のような場合は、ISBNの説明語句であることを示す:(コロン)を前に付けて、VOLフィールドに転記するようにしてください。

6)のような場合には、原則としてその語句をVOLフィールドから削除します。

しかし、例えば、"alk. paper"というような(紙質)表示が、"hardcover"等の装丁表示の代用として機能し、"pbk."等の装丁表示と並び立つような形で表示されている場合もあります。このような場合は、5)と同様の扱いでその語句を残しておいてもかまいません。

7) 同じISBNがフィールドを繰り返して記録されている

《解説》 UK/MARCでは、ISBNが管理用の番号であると同時にデータとしても出現しています。そのため現在は同一のISBNが繰り返して記録されています。

《対応》 VOL、PRICE、XISBNの各フィールドとセットになっていないISBNを削除してください。

8) ISBNがNOTEフィールドに記録されていることがある

《解説》 1981年以前に作成されたUK/MARCでは、ISBN、説明語句及び入手条件が注記エリアに記録されており、そのデータがそのままNOTEフィールドに埋め込まれています。

《対応》 対応するISBN等のデータがISBNフィールド等に存在することを確認の上NOTEフィールドのデータを削除してください。

09号 井権 悉恥 騰綾 收- No. 48 (1994. 12. 10)

9) 出版地の記録がない場合がある

《解説》 1975年前後に作成されたUK/MARCでは、出版地に関する情報が記録されていないものが多くあります。また、後述するCIPLレコードの場合にも記録されていません。

《対応》 目録対象資料現物の出版地を記録してください。

10) PTBLフィールドの記録が、目録対象資料上の表示と異なることがある

11) 親書誌標題の後ろに、出版者、出版地、"series"等が付記されていることがある

12) サブシリーズ(NCの基準では中位の集合書誌単位にあたるようなもの)が、親書誌標題の一部として記録されていることがある。また、ISSNが記録されていることがある

13) 親書誌の要素の一部(例:親書誌の責任表示等)が、<>(リンクされた親書誌IDを埋め込む場所)の後ろに記録されていることがある

《解説》 10) ~13) について

PTBLフィールドは、UK/MARCのシリーズエリアのタグのデータを機械的に埋め込んで作成されています。AACR2Rでのシリーズエリアの規定の情報源と、NCの親書誌の規定の情報源は、完全に一致する訳ではありません。また、UK/MARCのシリーズエリアのタグは一種類ではなく、責任表示を付けた形、シリーズとしての統一標目形、ISSNを記録するためのサブフィールドを持つタグ等の複数のバリエーションがあります。

《対応》 これら基準の相違やタグの種類の変異を判断した上で参照MARCを作成することは、システム的には困難です。参照MARCのPTBLフィールドについては、NCの基準に合った形で作成されているかどうかを確認し、必要な修正を行った上でリンクを形成するようにしてください。この確認が慎重に行われなかった場合には、多数の親書誌が重複するという事態も発生します。データベースの品質向上のためにも、ご注意ください。

14) 親書誌として記録することが適当なものが、NOTEフィールドに記録されていることがある

《解説》 UK/MARCの書誌レコード作成単位が、NCの基準と一致していない場合、このような状況が発生します。

《対応》 NCの書誌レコード作成単位に合わせて、PTBLフィールドに記録します。

15) ALフィールドで、日本人名がAACR2の標目形になっている

《対応》 NCでは著者名典拠ファイルは和洋共通です。日本人名については、「日本目録規則1987年版改訂版」の標目形に修正してください。AACR2形の標目は、著者名典拠レコードのSFフィールドに、*(アスタリスク)を前に付けた形で参照形を作成することになっています。

16) 会議名の回次、年次、開催地も標目の一部として変換されている

《対応》 回次等は「その他の情報」として、< >の後ろに記録してください。

17) UTLフィールドの値が、NCの基準に合致していない

《対応》 NCでは、当面、統一書名典拠レコードの作成範囲を、無著者名古典、聖典及び音楽作品に限定しています。UK/MARCに、これら以外のものが統一書名標目として記録されている場合は、リンク形成は行わず、フィールドを削除してください。ただし、原書名等、VTフィールドに記録することが可能なものはVTフィールドに移してください。

18) YEAR(刊年)フィールドの2番目の値が、刊行終了年以外になっていることがある

《解説》 UK/MARCの当該タグのデータを機械的にYEARフィールドに埋め込んでいるため、著作権登録年や頒布年・製作年等が刊年2として記録されてしまうことがあります。

《対応》 YEARフィールドの刊年2は、複数の出版物理単位からなる刊行物の刊行終了年を記録すべき個所ですから、1冊本のYEARフィールドにおいては本来、主たる刊年のみを残して、余分なものは削除することになります。

19) 第一出版地以外の国名コードがCNTYコードに入っていることがある

《解説》 UK/MARCでは出版地に母国英国の地名が入っている場合には、それが第一出版地でなくても出版国コードにはukを記録するようになっています。

《対応》 第一出版地の出版国コードに訂正するようにしてください。

20) TXTL(本文の言語コード)フィールドが空白であることが多い

《対応》 適切な言語コードを、なるべく記録するようにしてください。

21) CIPLレコードの流用に関する注意事項

《解説》 CIPLレコードとは、出版物が実際に刊行される前の情報を基に作成された目録情報です。出版事項、形態的事項等が、目録対象資料現物と一致していない場合があります。

《対応》 UK/MARCのCIPLレコードでは、PRICEフィールドの価格データの後にCIP entryという語句が記録されているのが特徴です。

出版地についての記述がなかったり、出版年・著作権登録年も微妙に現物と相違し

ている場合がありますので、PUBフィールド及びYEARフィールドについてご注意ください。また、形態事項も記録されていない場合もありますので、PHYSフィールドについてもご注意ください。

22) 親書誌レコードの流用全般に関する注意事項

《解説》 特にPTBLフィールドに関する個所で述べたことと重なりますが、MARCの親書誌レコードは、UK/MARCのシリーズエリアを基にして作成されており、NCの親書誌の基準と合致しない部分があります。また、コードブロック等、変換されずに空白になっているフィールドが多数あります。

《対応》 親書誌の重複を避けるため、参照MARCから親書誌レコードを新規作成する場合には、NC中に既に作成されている親書誌レコードがないかどうかを十分に確認したうえで、慎重に行ってください。また、上で述べたとおりデータが不十分ですので、目録対象資料と照合して、データを豊富にする方向でレコードを作成してくださるよう、お願いします。

「目録情報の基準運用細則」作成検討部会の審議内容

「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第11回打ち合わせ(調整作業班による)

日時：平成6年10月7日(金)13:30～17:00

1. 「和図書書誌レコード」について

2.2.1 「TR」と2.2.2 「ED」、2.2.3 「PUB」、2.2.4 「PHYS」、2.2.7 「NOTE」、2.3 「リンクブロック」について、前回の審議結果をふまえた修正案と、BBSで寄せられた意見をもとに意見交換を行い、全体的な語句の見直し等が了承された。審議結果をまとめた修正案は、次回の部会で最終的に確認を行うことになった。

2.3.1 「PTBL」等の部分については、調整作業班内のメンバーの分担によって検討が行われており、それらについても、次回の部会で審議を行う予定になっている。

「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第12回打ち合わせ(全体会議)

日時：平成6年11月24日(木)14:00～17:00

1. 和図書書誌レコード」について

2.2.1 「TR」と2.2.2 「ED」、2.2.3 「PUB」、2.2.4 「PHYS」、2.2.7 「NOTE」、2.3 「リンクブロック」、2.3.1 「PTBL」、2.3.2 「AL」、2.3.3 「UTL」について、前回の審議結果をふまえた修正案と、BBSで寄せられた意見をもとに意見交換を行った。審議結果をまとめた最終案を、次回の部会で検討することになった。